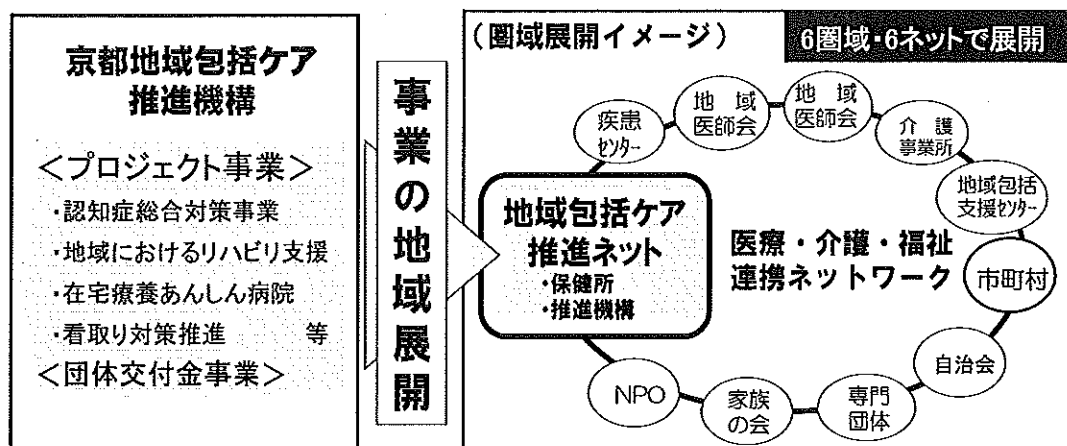


平成26年度 京都地域包括ケア推進機構事業計画書

事業展開の方向性

(重点事項)

アクションプランにおいて課題とされている「地域包括ケアシステムが自立的に機能する地域づくり」に向けて、地域包括ケアシステムを府内全域に浸透させていくために、京都府が全ての2次医療圏に「地域包括ケア推進ネット」を設置し、保健所と連携して、市町村への伴走支援と機構事業の地域展開を行う。



事業計画

(1) プロジェクト推進事業

① 在宅療養あんしんプロジェクト

ア 在宅療養あんしん病院登録システムの普及

「在宅療養あんしん病院登録システム」を地域の実情に合わせたモデル事業を地区医師会と連携し実施するとともに、制度の更なる定着促進に向けた広報を実施する。

イ 在宅療養あんしん病院等支援（補助事業）

あんしん病院に対して、「登録者情報（登録通知書等）の管理」や「地域連携担当者等が患者の退院時などに行う制度説明等」に対する支援を実施する。

ウ 在宅療養あんしん病院登録システムの運営

登録申請書のデータ入力作業及び電話相談対応を行う。

② 看取り対策プロジェクト

住み慣れた地域において、誰もが安心して人生の最終章を過ごすよう、計画に基づき、終末期の生き方を選択することを支援できる体制等の構築、看取りの対応力向上のための人材の養成、緩和ケア等の機能の充実、府民意識の醸成等について、関係団体によるネットワークを構築し推進を図る。

③ 認知症総合対策推進プロジェクト

2部会（医療・ケア連携部会、初期対応・地域部会）を中心に、必要な認知症対策の議論を実施し、認知症総合対策推進計画（京都式オレンジプラン）【計画期間：平成25年度～平成29年度】の施策を具体化するために必要な対策等の検討を行う。

また、平成25年度に構築した認知症ポータルサイト「きょうと認知症あんしんナビ」の医療機関の情報等コンテンツの充実を図るとともに、認知症ケアパスの作成・普及を支援する。

④ 地域におけるリハビリ支援プロジェクト

必要なリハビリを継続して受けられるよう、リハビリ専門医や在宅等においてリハビリに対応できる医師（かかりつけ医等）、リハビリ専門職を育成するとともに、さらなる質の確保を図る。

また、在宅リハビリサービスのさらなる充実を図るとともに、先端のリハビリ治療の研究開発・普及促進に努める。

さらに、医療系従事者（医師、看護師等）と介護系従事者（社会福祉士、介護福祉士等）など、医療・介護・福祉のさらなる連携を促進する。

⑤ 北部地域医療・介護連携プロジェクト

北部医療センターと連携し、多職種が参画する北部地域医療・介護連携プロジェクト会議を実施し、北部医療センターを核とした在宅医療と介護連携の推進体制を構築するとともに、認知症ケア地域連携ネットワークを構築する。

⑥ 地域で支える生活支援プロジェクト

「京都高齢者あんしんサポート企業」の養成や具体的な活動を推進するためのフォローアップ研修等を行うとともに、市町村が既に実施をしている地域の見守り事業との連携を図り、サポート企業の裾野拡大を図る。

⑦ 介護予防プログラム構築プロジェクト

これまでの取組で開発した運動、口腔ケア、栄養・食生活改善等を組み合わせた複合型プログラムや科学的評価システムの地域への導入を支援する。